

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

1 総合学科への再編整備に向けた学校づくりの推進

- (1) 学校全般
 - ア 生徒一人ひとりが自己の可能性を広げ、夢や進路希望を実現するため、系列を含む教育課程の編成、地域連携及び国際感覚の育成を推進
 - イ 学校の特長を積極的に発信
- (2) 希望進路の実現
 - ア 組織的なキャリア教育を推進し「産業社会と人間」等の学習により生徒の「キャリアアンカー(自分の将来を選択する際、最も大切なもの)」を形成
 - イ 進学にも対応した計画的な講習・補習等の実施、及び自学自習等へのサポート体制の構築
- (3) 地域連携
 - ア 介護福祉施設・保育所における実習、小中学校との学習補助・部活動交流、大学との語学交流等の高大連携の他、地域諸機関とも連携を推進
- (4) 国際感覚の育成
 - ア 国際協力に係る各種ボランティア活動への積極的参加及び中国語圏や英語圏等との国際交流の推進
 - イ 校内においても渡日生徒と日本人生徒の共同の場を計画的に増大させる。

2 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成
 - ア 授業等の中で自己表現する場をより一層拡充する。
 - イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援する。
 - ウ 部活動参加率の維持(70%以上)をめざす。
 - エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や態度を育む取組みを充実させる。
- (2) キャリア教育の推進(エリア選択等)
 - ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、「マイプラン」(1,2年次のエリア、2,3年次の科目選択)作成指導を計画的に実施する等、3年間をみすえたキャリア教育の充実を図る
 - イ 生徒の考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、エリア発表会の実施等、エリア学習の一層の充実を図る。
 - ウ 総合学科への改編に向け、キャリア教育推進のための組織体制の確立、及び系列等における発表会の継続
- (3) 進路実現の支援
 - ア 生徒に主体的な学習を促すとともに、学習活動の総和としてより一層、多様な進路実現を図る。
- (4) 資格取得等の推進
 - ア 外部資格取得をより推進し、生徒の「やる気」を引き出す。
- (5) 自習できる環境の整備

※学校教育自己診断(生徒向け)での「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価を、H30年度までに+9(78)% (H27年度69%)をめざす。

「ガイダンスは分かりやすい」の肯定的評価を、H30年度までに+5(78)% (H27年度73%)をめざす。

「進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価で、H30年度において85%以上を維持(H27年度90%)

※四年制大学進学希望者(第3学年当初)の一般入試受験率を、H30年度までに+5(45)% (H26~H27年度平均40%)をめざす。

3 「授業力アップ」に向けた取組み

生徒の基礎・基本の定着、考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、以下の取組みを実施する。

- (1) 教科を中心とした授業改善の取組み
 - ア 授業アンケート結果及び授業改善方針等を活用し、教科を中心とした授業改善の取組みを行う。
- (2) 教員相互の授業見学と研修
 - ア 経験年数の少ない教員を中心に、授業改善のための「授業力アップ」チームをつくり、意見交流・授業見学等を推進する。

※教職員対象の学校教育自己診断における「指導方法の工夫・改善」に対する肯定的評価を、H30年度までに85%以上を維持(H27年度92%)。

4 情報の共有化

- (1) 学校教育の活動の「見える化」
 - ア 今まで学年、分掌、個人が個別に持っていた情報を収集・分析し、それを共有化し、より充実した教育活動を行う。
- (2) ICT化活用方針作成
 - ア ハード面も含め、本校におけるICT活用方針を確立する。

※情報委員会によるICT活用方針を作成する。

5 新しい地元校づくり

- (1) 小中高連携
 - ア 出前授業や部活動等、小中学校との連携を推進する。
 - イ 地域を対象として、広く学校の特色を発信する。
- (2) 地域活動との連携
 - ア 地元地域との連携を進める。

※(1)については実施回数、参加者数を増加させる。また(2)については活動状況をWebページで紹介する。

6 生徒理解の促進

- (1) 生徒情報交換会の実施
 - ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携しながら生徒情報交換会を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明確に示していく。

※学校教育自己診断(保護者・生徒向け)での「よく相談ののってくれる」項目の肯定的評価をH30年度までに保護者向け+5(77)% (H27年度72%)
生徒向け+8(72)% (H27年度64%)をめざす。

7 中国等帰国生徒・外国人生徒にかかる教育活動の充実

- (1) 中国帰国生徒・外国人生徒の指導

ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。

イ 日本人生徒との交流の促進

※近隣市外教との情報交換会を年2回以上実施する。また校内クラス活動、行事等で渡日生徒と日本人生徒との共同作業を計画的に増やす。

8 国際交流の推進

(1) 中国の学校等と提携し、相互交流を行う。

ア 生徒の短期語学研修の実施

イ 本校教諭による相手校における日本語指導

ウ 相互の短期留学をめざす。

エ. 英語圏の学校との相互交流の実施

※生徒の短期語学研修を推進するが、姉妹校提携は当面保留（国際情勢の変化も考慮）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1 = よくあてはまる、2 = ややあてはまる、3 = あまりあてはまらない、4 = まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り 1 と 2 の合計を肯定的回答、2 と 3 の合計を中間的回答、3 と 4 の合計を否定的回答とする)</p> <p>○学校生活への満足度、全体的傾向 (関連質問) (1 と 2 との合計 (肯定的回答) () 内は前年度) (以下同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 「学校に行くことに意義を感じている」 81 (78) % 「門真なみはや高校に入学してよかったと感じる」 86 (87) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 53 (54) % ・保護者 「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 86 (85) % 「他の学校にない特色がある」 88 (87) % 「保護者の教育上の願いを聞いてくれる」 71 (70) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 34 (36) % <p>●生徒・保護者ともに学校生活への満足度は高水準 ●「意義を感じない」生徒の割合を減らすため、今後も教育内容の一層の充実が必要 ●老朽化した施設・設備の改善が課題</p> <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者 「学校からの文書等の連絡はしっかり届いている」 71 (71) % 「子どもから学校の話をお聞きすることが多い」 74 (68) % 「学校は、家庭への連絡や意志疎通を十分行っている」 68 (65) % 「学校のホームページを利用した事がある」 49 (46) % <p>●文書等の連絡や保護者が子どもから話を聞く機会を含め、家庭への意思疎通は少し上昇した。継続した取り組みが必要。 ●連携推進のため、一斉配信メールの導入などを考えている。</p> <p>○学習環境、学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 「静かに授業を受ける環境がある」 77 (80) % 「教え方を工夫している先生が多い」 72 (69) % 「授業の補習や講習は十分用意されている」 86 (84) % ・保護者 「進学のための講習が十分行われている」 79 (75) % <p>●学習環境、教員の教え方の工夫について、生徒の評価は概ね高水準 ●基礎・基本の定着、考える力の育成等に向け、一層の授業改善と生徒の自学習習慣の定着が課題</p> <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 「進路や生き方を考える機会がある」 90 (90) % 「選択のためのガイダンス (マイプラン指導) は分かりやすい」 73 (73) % ・保護者 「子供の将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」 89 (77) % 「学校から保護者に、進路について必要な情報を提供している」 80 (70) % <p>●進路や生き方を考える機会を積極的に設けており、評価は高い。科目選択ガイダンス (マイプラン指導) の評価も高水準であるが、生徒状況に応じ、一層分かりやすい指導の工夫を継続 ●保護者からの評価が前年に比べ非常に高くなっている。進路部主導のきめ細かい指導が評価されている。 ●教員がキャリア教育の観点を持ったうえで、進路部・教務部・学年が連携し、3年間を見とおした計画的な進路指導及びガイダンスを一層充実させる必要がある。</p> <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 79 (80) % 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 77 (75) % ・保護者 「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 88 (86) % ・教職員 「服装・遅刻・頭髪指導は適切だと思う」 86 (91) % 「生徒指導において、どの教員も同じ姿勢でのぞんでいる」 43 (59) % <p>●ていねいな生徒指導に対する生徒評価は概ね高水準、保護者も本校の生徒指導を概ね評価</p> <p>○人権尊重の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 「学校では全体的に人権に配慮が十分なされている」 91 (89) % 「相談にのってくれる先生がいる」 63 (64) % ・保護者 「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」 85 (83) % 「子どものことで相談にのってくれる先生がいる」 77 (72) % <p>●相談できる先生について、1/3 の生徒が「いない」と感じている状況の改善のために、生徒・保護者が抱える課題をしっかりと理解して相談に応じる先生の存在、及び相談に対応する学校体制の充実が必要</p> <p>○学校の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 「生徒に関する話が日常的に行われている」 86 (86) % 「教育課題についてよく話し合われている」 71 (74) % 「教育活動全般について生徒や保護者の願いにこたえている」 78 (87) % <p>●教員は生徒の課題を共有し、生徒及び保護者の願いに応えようとしている。 ●今までの取組みを分析・評価したうえで、再編整備後の学校の在り方について検討を深める必要がある。</p>	<p>第一回 平成 28 年 6 月 10 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間が短いのが気になる。家庭でも見守りたい。 ・雨の日の自転車通学について、自転車置き場から校舎までの間に傘も必要。合羽を収納する環境なども整えてほしい。 ・遅刻数が減少していることを評価したい。 ・門真高校の時代に比べて、門真市内からの進学率は低下しているものの引き続き連携を進めていきたい。 ・普通科総合選択制におけるエリアと総合学科改編後のフィールドとはどのように違うのかがとらえにくい。普通科より自由に学べて興味や関心を深めることができる、という印象を受けた。「なみはや高校の伝統」をいい方向で引き継いでほしい。 ・ケータイ、SNS を通じての犯罪が多く被害も多い。学校でも身を守るすべを身につけるよう取り組むことを要望したい。 <p>第二回 平成 28 年 11 月 9 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では生徒が生き生きしていた。興味・関心の持てる授業づくりに熱心な印象をうけた。さらに工夫を重ねてほしい ・退屈しないよう、授業が工夫されていた。 ・小高連携の授業への準備をしている授業を見学できてうれしかった。具体的に、どんな形で地域連携が進めていけるの考えていく必要がある。 ・中学生の保護者には門真高校の出身者も多くいる。かつてにくらべ、なみはやへの進学者は少なくなったが、中学校を訪ねてきたときの様子を見て、卒業生が行った高校で頑張ってくれているのはうれしい。 <p>第三回 平成 29 年 1 月 25 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の進路指導教員の総合学科の認知度を高めるといことも必要であるが、もっと「なみはや」ではこんなことを、やっている。やりたい。と具体的に発信してほしい。 ・中学校では「総合学科とは」を十分にわかって指導する先生はいないかもしれない。むしろ、中学生が直にオープンスクールに行って自ら判断してもらう方がよいのでは。 ・計画素案には書かれてはいないが、本校渡日生徒が本国への「リユース運動用具寄附」について自ら企画し、本校生徒も巻き込みながら、本校運動部のみならずいろんな民間団体へも断られながらも足繁く通い、見事実現した事例や大阪市イベントにボランティアのインバウンド通訳 (中国語) として参加し、大阪市営地下鉄から表彰された事例、さらに「地域清掃」を伝統的に続けている、まさに地域に根付いた本校運動部について紹介した。 ⇒事例について、生徒が自ら「考える」「地域貢献を行う」「国際貢献を行う」と、まさに本計画素案に沿っているのではと委員から好評価を得た。 ・素案に書かれている本校のユニークな背景は、「なみはや」のキャッチコピーになるのではないかと。 ・来年度はカリキュラムマネジメントが重要。旧と新のシラバスマネジメントは、教員の意識が大切。 ・生徒本人が抱えきれなくなる前に、必要な安全安心の相談体制の充実が必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 総合学科への再編整備に向けた学校づくりの推進		<p>(1) 学校全般</p> <ul style="list-style-type: none"> 再編整備に向け、積極的に情報収集を実施 進路実現・地域連携・国際感覚の育成準備に加え、情報発信のための組織を立ち上げる。 学校の特色について平成28年度中の各種学校説明会で積極的に発信する。 組織的・計画的キャリア教育推進のための計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の立ち上げ (首席・関連分掌・委員会等) 各種学校説明会に向けた資料を作成し、総合学科への理解を深めるように本校の特色を発信 *説明会(学外10回) *中学校訪問(40校) 3年間のキャリア教育推進計画及び1年次の「産社」指導計画策定 地域連携・国際感覚育成に向けた各種機関との連携推進 *市内小中学校(1回以上(新規)) *大学との具体的連携の推進(現連携校に加え最低一校以上) *地域諸機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備準備委員会(カリキュラムなど小委員会を含む)設置(○) 新たなパンフレットを作成。 *説明会を10回行った。(○) *40校の中学校を訪問した。(○) *キャリア推進計画及び「産社」について指導計画を策定中。(○) 地域連携 *砂子小学校への理科の出前授業を行い、好評であった。(○) *新たに大阪教育大学のコンソーシアムに参加した(「子ども教育系列」の新設に伴う)(○) *門真市教育委員会等と連携している。

<p>2 生徒の「やる気」スイッチをオンにする</p>	<p>(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成</p> <p>ア エリア学習等の充実</p> <p>イ 部活動参加率向上</p> <p>ウ 「マイプラン」の体系的な作成指導</p> <p>エ 進路実現の支援</p> <p>(2) 資格取得等の推進</p> <p>(3) 自習できる環境の整備</p>	<p>(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのエリアで学習成果の発表等を実施 総合的な学習の時間等も活用し、エリアのまとめ学習等を通して、さらに考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。 各教科においても、まとめ・発表の機会を充実する。 再編整備後も系列等における発表会を継続 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入部、入学時の学年・クラスでのいねいな入部指導等により加入を促進 部活動掲示板の活用等により校内で活動を周知 中学生向けに部活動の積極的な発信 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業までの教育活動全般をとおして、組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を見通して指導計画を作成する。 「マイプラン」作成及び進路指導においては、教員の学ぶ機会を充実することで、指導力の向上を図る。 再編整備後はキャリア教育推進のための組織体制を確立し、「産業社会と人間」等の学習を計画的に進める 進路実現に向けて、特に自由選択科目の学習が重要であることを生徒に周知 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業改善の取組みを推進し、授業での生徒の主体的な学習を促すとともに、自学自習の習慣を育成 とりわけ自由選択科目が進路実現に向けた科目であることを生徒に周知し、学習を促す。 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。 <p>(2) 資格取得等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が資格取得の意義を理解できるよう、教科・学年・エリア等で生徒に積極的に働きかける。 例：漢字検定・英語検定 エリア関連でのパソコン検定、日本語・中国語検定等 <p>(3) 自習できる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室・会議室等を活用し、講習以外で自主的に残って自習する生徒の定着を図る 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3学年で実施する普通科総合選択制アンケート「十分に力が付いたか」の全項目の肯定的評価について75%以上をめざす。 (H27 75%以下7項目中1項目) 全項目平均80%以上を維持 再編整備後も同様のアンケート等の実施により成果を検証 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入部活動等の実施 1年生入部率80%以上を維持 全学年入部率70%以上を維持 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒)で「ガイダンスは分かりやすい」(73%+2→75%) 「進路や生き方を考える機会がある」85%以上を維持 <ul style="list-style-type: none"> 普通科総合選択制アンケート「自由選択科目は進路実現に役立った」75%以上を維持 再編整備後も同様のアンケート等の実施により成果を検証 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート 講義「授業内容を予習・復習」 「授業中は集中」 実技「授業に積極的に参加」 「授業中は集中」 の平均(76%+1→77%) 授業以外の学習について ほとんど学習しない生徒数を2割減 (H27.9 1年52人 2年76人) 学習時間の増加 (H27.9 1年40分 2年20分) 希望進路の実現状況 四大希望者(3年当初)と比較した一般入試受験率 (H26~H27 平均40%+2→42%) <p>(2) 受検者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> i 漢字検定受検者数 (H27 92人)の5%増 ii 英語検定資格保持者数維持 *H27 (3級93人・準2級23人・2級7人・1級1人) iii 当該エリア等の受検率80%以上 ただし生徒の選択状況による <p>(3) 年間を通じた自習教室等の利用日数 (H27 6月～平日に自習室を開放)</p>	<p>・「専門的な知識」「自分で考える力」「自分を表現する力」「プレゼン能力」「コミュニケーション力」「物事に対する理解力」「物事を調べる力」のすべての項目で肯定評価が75%以上(○)。</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし全項目平均は78.6%であった(△)。もっとも低下したものが「専門的な知識」(前年比-5.8%)である。今後の課題である。 1年生入部率73(82)% (△) 全学年入部率は74(74)% (○) <p>1年生については男子加入率94(83)%、女子加入率61(81)%と、女子の落ち込みが目立つ。全国的な傾向ではあるが特に体育系集団種目の落ち込みが激しい。 (○)内昨年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ガイダンスはわかりやすい」73%(△) <p>前年比同率ではあるがさらに上昇させたい。 「進路や生き方を考える機会がある」90%(○)</p> <p>「自由選択科目は進路実現に役立った」67.1(73.8)% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート 生徒の取組みを表すアンケート項目について。77%(2回平均)(○) 自宅学習をほとんどしない生徒(H28.9結果)1年47人 2年40人(計前年比67.9%)(◎) 学習時間(同上時期) 1年27分、2年30分(△) <p>一般入試受験率：4月段階での4年制大学志望者154人中66人 42.9%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> i 漢字検定受験者数 第1回99人、第2回74人(◎) ii 英語検定資格保持者 3級82人、準2級48人、2級15人、準1級2人(◎) iii エリア受験率 パソコン検定 100% 日本語検定 100% 中国語検定 90.4% ハングル検定 61%(日本人のみ)(◎) <p>(3) 自習室は開放している日に生徒が積極的に利用(○)(利用率約80%)</p>
-----------------------------	---	--	--	--

3 「授業力アップ」に向けた取り組み	<p>(1) ア 教科を中心とした授業改善の取り組み</p> <p>イ 教員相互の授業見学と研修等</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科での取り組み 授業アンケートの結果を教員及び教科等にフィードバックする。 基礎・基本の定着、考える力・まとめる力・発表する力を育成するため、年間を通して授業改善に取り組むとともに、その結果を検証する。アクティブラーニングを含み、授業改善に向けて取り組む。 3年間を見通した指導計画と指導方法について、共通理解を図るため、資料を作成する。 *教科間の情報共有のため、教科主任会を定例化 <p>イ 教員相互の授業見学と研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間に合わせた若手教員による授業見学及び研修の実施 ・初任者の研究授業を活用した研修会等の実施とともに、学校全体でも取り組みを推進 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート全項目の平均 (78%+1→79%) *非常勤除く ・自己診断(生徒)で「教え方を工夫している先生が多い」 (69%+3→72%) ・自己診断(生徒)で「授業でまとめ・発表の機会がある」 80%以上を維持 ・自己診断(教員)で「教員間で教科指導・評価のあり方について協議」 (70%+3→73%) ・共通理解のための資料作成 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員(教職経験年数3年未満)は最低1回授業見学を行う。 ・すべての初任者の研修会を開催 (すべての初任者について各1回以上開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート全項目の肯定平均(2回のアンケート平均) 80.3% (◎) ・自己診断「教え方を工夫」 72% (○) ・「授業でまとめ発表の機会がある」 78% (△) 昨年 80%、一昨年 74% ・「教員間で教科指導・評価の在り方について協議」 (70%→50%) (△) ・シラバスを新たに書き換え、資料作成を行っている (○) ・若手教員の授業見学、すべての初任者の研究授業を行った (○)
4 解の促進 生徒理	(1) 生徒情報交換会の実施	(1) ・ 軽微なことでも生徒についての情報を共有するための生徒情報交換会を定例化し、組織的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒情報交換会の実施(年5回) ・ 生徒情報交換会を組織化する。(構成員等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒情報交換会は2か月に一回程度、定例で行っている (○)
5 国際交流の推進	(1) 中国の学校等との相互交流	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の短期語学研修の充実 中国及び英語圏(グアム・セント・ジョンズ・スクール)での研修を推進するとともに、他地域の研修についても検討 ・ 中国以外のアジアの国、地域との交流の拡大をめざし、積極的に交流を受け入れ ※いずれも国際情勢等の変化を考慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期語学研修に参加する生徒数を維持(H27 9人) *ただし交流費用等の条件を考慮 *交流成果を生徒間で共有 ・ 国際エリア生徒及び他のエリアの生徒も加わった国際交流申込みの受け入れ数の増加(H27 1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グアムの研修についても、希望者全員の参加で実施(短期語学研修参加生徒13人)(◎) ・ 交流成果を全校集会で発表、またPTAの会合でも発表した(◎) ・ 国際交流を行った学校は2校(中国及び韓国)(◎)